第４１回　大鹿村リニア連絡協議会質疑応答概要

日時：令和８年９月１６日　午後７時００分から

場所：大鹿村交流センター

大鹿村リニア連絡協議会について

意見なし

1. 県発注工事について

意見なし

2. 南アルプストンネル工事・伊那山地トンネル工事について

Ｑ：青木川工区のガスの発生についてご説明いただいたが、一応基準より坑内は大幅に低いということだったが、新聞の見出し等では、切羽では基準を超えているような記事だったと思う。その辺の詳細を教えていただきたい。

JR：坑内環境については、先ほどもご説明した通り、基準値と比べて大幅に低い値であり、掘削作業は実施できる状況です。一方で、トンネル先端部において局所的に高い値が出ていることから、今回は掘削作業を中断して換気設備を増強し、改めて工事を再開する計画としました。

Ｑ：切羽では局所的に高いが坑内、全体にすると基準を大幅に下回るということか。

JR：その通りです。トンネル坑内は、風を送って循環するようになっていますので、局所的に大きい値があっても周りに広がっていくことで、少し離れると低い値になります。

Ｑ：可燃性のガスということでどういった心配があるのか。例えば局所的でも危険があるのか。特に作業員の方のことが気になったがその辺は大丈夫か。

JR：作業を行うトンネル坑内環境としては、基準値に対して大幅に低い状況です。局所的に高い値がありますが少し離れると送風により希釈されるため、そういった危険はないと考えています。

Q：特に可燃性というと作業員の方の危険が一番心配されるので、安全にくれぐれも注意して工事していただきたい。

Q：可燃性のガスのことでお伺いします。メタンと硫化水素ということをお聞きしてます。例えばメタンですと、濃度が高ければ火花が散ると爆発します。硫化水素だと濃度が高ければあっという間に逝ってしまいます。最悪のことを考えて、作業の方を準備して進めていただきたい。防毒マスクをして作業はできないため、くれぐれもその辺は抜かりないようにお願いします。

今回ガスが発生したということで、メタンと硫化水素ということですが、メタンだけ、硫化水素だけではなく、今回はメタンと硫化水素、二つ出たことは地質上意味があることか。よくあることでは済まされないと思うが、その辺のところをお聞きしたい。なぜ溜まっていたかは重要なことだと思う。

JR：最悪のことも考えて工事を進めるようにというお話いただきましたが、我々も安全第一を考えて、坑内のガス濃度はまだ十分低い状態ではありますが、一旦作業を止めて、万が一更にガスが出てきたときに備えるべく、換気設備の増強を行うために中断した状況です。

メタン、硫化水素の件ですが、文献を読むと地質が複雑に褶曲したり、波打っているところで壁になり、そこに地中で反応したガスが溜まることが一般的にあります。加えて、中央構造線から東側は付加体ということで、海底の火山や、海底の堆積物から成り立っている地層であり、そういった点からも一般的には長野や新潟辺りでは、ガスが地中に溜まっているといった文献もあります。

そういったことも踏まえながら、これまでもガスが出るかもしれないということで、トンネル坑内のガスの測定を日々行い、監視しながら工事を進めてきたところでしたが、今回の状況を受け、更なる安全対策を講じた上で、トンネル掘削を再開することで考えています。

Q：硫化水素が出たということで、温泉かと思ったがそれはないか。

JR：青木川工区については、現在、水はほとんど出ていない状況です。

Q：ガスが出たところの地質、岩は、何岩の場所か。

JR：かんらん岩という岩石で、地質区分は御荷鉾帯になります。

Ｑ：発生土仮置き場Ａに要対策土を仮置きする予定ということですが、これは以前やった不溶化の形で仮置きをするということか。そしていつぐらいまで仮置きの予定か。

JR：以前ご説明した不溶化というのは、例えば変電所等の本置きとして活用させていただくところでの対応となります。今回は仮置きになるため、遮水シートで覆った形で仮置きをさせていただきます。

　具体的な時期については、今後の活用先が決まってくれば順次撤去していくことになります。現時点で明確にこの時期までとは申し上げられませんが、将来の活用に向けてそこまで仮置きをさせていただく状況です。

Ｑ：今、変電所にあるものを持っていくということか。

JR：今後掘削に伴って要対策土等が出てきた場合に、仮置きができるようにしていくものです。変電所も今後造成工事をしていきますので、仮置きスペースが減ってくれば、仮置き場Ａに持っていくことで考えています。

Ｑ：変電所では不溶化の実験をされていたと思うが、遮水シートでは絶対に要対策土の中身の成分が、外に出ないという検証はされているのか。

JR：遮水シートで覆う対策は、世の中で広く一般的に行われている方法で、保全計画書でも仮置き場Ａにおいてそのような方法で仮置きしていくことで、既に公表させていただいております。現在仮置き場Ｅに仮置きしている要対策土等についても、同様の方法で実施させていただいています。

Ｑ：今後の掘削で出た場合ということは、除山やそちらの工区で今現在出ているということではなく、出る可能性があるということで用意されている理解でよいか。

JR：おっしゃる通りです。

3. その他について

Ｑ：以前、中電さんには鉄塔付近のナラ枯れが激しいのではないかという質問をさせていただいて、きちんと調べていただきありがとうございました。

　今回の案件を出したのは半年ぐらい前だと思いますが、その時中電さんは原発関係の問

題や、データの不正な取り扱いとかがあり世間を騒がしていましたが、ここ最近はまたいろいろなものが出てきて、中電苦しいなと残念な気持ちで見ています。

今回のことはきちんと調べていただいたので、ぜひともこれにもう少し手を加えて、大勢の人に理解してもらい、応援してもらえるように取り組んでいただきたいと思います。

最初に大西山の鉄塔付近がハゲてるということでお話して、そのときにぜひボランティアを募って見に行こう、できたら作業しましょうと提案しましたが、非常に危ないということで無理だと理解しています。高いところへ行かなくても、上青木の上の方はそんなに高度としては高くない、危険かどうかはわかりませんが、比較的安全なところを見学会等していただいて、興味ある人に見てもらう、今森林は非常に新しい知見がどんどん出てきて、木と木の間で養分をやり取りしていることもわかってきています。

そして例えばある木が病害虫にやられると、その木の隣近所に病害虫でやられたというサインを送ることまでわかってきています。そういうことも森を見る上では面白いことで、知的好奇心をくすぐるようなことも含めていろいろやっていただくと、中部電力さんが自然を守って作業をしていることが理解していただけるため、ぜひやっていただきたい。

今日、新聞社の方も来ていますので、もし実現するようなら内緒にやるのではなく、オープンでやっていただきたい。ぜひ検討していただきたい。

中電 PG：中電グループはこのところ、度重なる不祥事や不適切事案を起こしており、心からお詫び申し上げます。お話いただいた通り今後も丁寧に対応して、皆様に失った信頼を取り戻せるよう真面目にコツコツやっていきたいと思っています。

緑化につきまして今後も経過観察する中で、皆様にご意見を賜るような機会をつくる見学会ができるよう検討していきたい。

いずれにしても、あのままで終わらせるつもりは全くありません。特にヒノキのところは本当に鹿に食い荒らされてしまい、早めに土地所有者様と今後どういった対応で木を植えさせていただくか、様々な取り組みを比較検討しながら進めていきたいと思います。

Q：一つ付け加えさせてください。キーワードは土の中です。そこに注意していただくと立派な木が生えるそうです。僕も勉強します。中電さんも勉強してください。
中電 PG：貴重なご意見ありがとうございました。

Q：No.29 であれば低いところなので、見学とかそういうものはできるかと思いました。

これから経過観察していただくということですが、このカバーしてあるものがそんなに丈の高いものではないため、活着してもここから出てきたら、鹿にすぐ葉っぱを食べられ

てしまうのではないかと心配なため、しっかりと経過を見て、また保護策を考えていただきたい。

中電 PG：貴重なご意見ありがとうございました。

4. 事務局からの報告について

Q：今回の連絡協議会が 4 回から年 3 回ということで、なお協議事項が生じた場合にはその都度臨時で協議会を開催するという一行がついていますが、今回のような可燃性ガスが出た、こういったことについて、これは協議事項が生じた場合に相当して臨時で協議会を開催することになるのか。

村：まだどういう場合という具体的な確定はないですが、例えば今言われたガスの関係で重大な事項や、外に影響がある、そのようなことが発生した場合には、検討の上で事項となる可能性はあります。